



ほんなこてゆたたり



文責 校長 平井 敏博

【令和5年度学校教育目標】

大人も子どもも、目指すは“とことん学び続け、とことん学び合う人”
～生涯学びの基礎づくり～

6月の苦労と、本気の連携チャンス ～学級で、今、起こっていること～

【内容ダイジェスト】

- ◎ 6月になり、学級の“落ち着きのなさ”が目立ってきた。
- ◎ ここぞ、学校と家庭の“連携ビッグチャンス”。
- ◎ 子ども達は（大人も）、自分の都合の悪いことは口にしない。だから、情報共有が不可欠。
- ◎ 学校も、よりよい教育活動の在り方に知恵を絞り続ける。

学校で、“魔の6月”という言葉があるそうです。この時期になると、多くの学級で子ども同士の関係の軋轢^{あつれき}や、いじめ・物隠しなどのトラブルが起りやすくなることから、このように呼ばれているそうです。

安全・安心の環境があつてこそ、関心・意欲も引き出すことができ、子ども達も伸びていくわけです。安全・安心が揺るがないように、しっかりと大人が見守らなくてはなりません。

現在、自信満々で、「多良小学校は、大丈夫です！」と言える状況にありません。4月、5月に比べると、“落ち着きのなさ”が目立っています。良くない“慣れ”や“甘え”、4月、5月のがんばりの反動でしょうか。“ざわつき”や“落ち着きのなさ”が広がり、担任のコントロールができない状況も時々見られます。良くないと自覚していながら、“わがまま”“自分勝手”を丸出ししてしまうこともあります。

安全・安心の確保のため、担任、級外職員、支援員等総動員で取り組んでいま

す。叱られるからやめるという浅い認識ではなく、叱られる理由を知り、本気で取り組み、自分が伸びる体験を数多くさせたいというのが、目指すところです。

担任の注意で改善しようとする態度が見られれば、全く問題ありません。しかしながら、子ども達ですので、度が過ぎることも出てきます。その時は、級外職員も出動です。その場を離れさせ、落ち着く時間をつくります。時間がある時は、別室で、指導・支援を行うこともあります。個別に落ち着いてやれば、伸びも実感しやすいです。

実際には、それぞれが、別々に担当する仕事を持っていますので、緊急的な個別・支援に十分な時間がとれません。大人目を外さずに、職員室で10分間、自分の心を落ち着かせるという苦肉の方策も考えました。担任の許可を得て、職員室で、名簿に名前を書き、タイマーで10分間計って心を落ち着けるということです。心を落ち着けて、教室に戻ります。

各学級に行って思うのは、他の人の目があれば自制できるのに、いつもの慣れたメンバーであれば、度の過ぎたことまでやってアピールするということです。大人もふりかえれば、子どもの頃、心当たりは誰でもあるものです。しかし、放っておいて大事な大事な時間を無為に使うことはできませんし、子ども達のためになりません。安心・安全を確保した上で、本気を引き出し、自分をとことん成長させていく軌道に、早くのせたいです（戻りたいです）。

子ども達は、自分に都合が悪いことを、どんどん話すことはあり得ません。「がんばりおるね?」「うん。」「わがまましおらんよね?」「うん。」ということで、終わってしまうことも多いです。がんばっていることをさらに踏み込んで聞いたり、子ども達の生活のめあてを共有し、実際の経過を見守ったりしていただければ、有り難いです（“とことんカード”は最適です）。実際のよりよい態度、よりよい行動に出てきた時こそ、誉めるタイミングです。

並行して、私達指導者が、子ども達の本気を引き出し、具体的な“成長”“伸び”“変容”を実感できる方法に磨きをかけることも大事です。うまくいかなかったことやうまくいったことを出し合い、課題解決に知恵を出し合い、いい方法は共有していきます。